(3) 底質の変化傾向

1) 水平分布の比較

第1回調査から第4回調査の水平分布の比較結果を図1-5に示す。COD、T-P、硫化物に関しては、 第4回調査とそれ以前とで分析方法が異なるため単純に比較はできないが、参考として評価を行った。また、酸化還元電位についても、参考として掲載している。なお、第4回調査の泥分率については、比較のために第3回調査までの分析方法で分析した結果を掲載している。

含水率は、第3回調査と比較してほとんどの海域で同様の値か、やや上昇していたが、広島湾では低下 していた。

泥分率は、ほとんどの海域で大きな変化はなかった。ただし、泥分率が高い海域(91%以上)の変化をみると、第3回調査と比較して第4回調査では備後灘や広島湾で値が上昇していた。

IL は、第3回調査と比較すると、第4回調査ではほとんどの海域で低下していた。特に第3回調査で値が高かった広島湾や伊予灘西部(別府湾)では低下が顕著であった。

COD は、第3回調査と比較すると、備後灘と広島湾で上昇しており、第1回調査と同程度の値となっていた。それ以外の海域では経年的に大きな変化はなかった。ただし、第4回調査での分析方法は第1~3回調査と異なっているため、単純に比較はできない。なお、昨年度の比較結果では、第4回調査での分析方法による結果は、第1~3回調査の分析方法の結果よりやや高い値が出る傾向がみられた。

TOC は、備後灘、広島湾、伊予灘西部(別府湾)で低下しており、それ以外の海域でもやや低下傾向が みられた。

T-Nは、第3回調査と比較すると第4回調査では、広島湾奥部ではやや値が低下しているものの、他の海域では大きな変化はみられなかった。

T-Pは、第1回調査から比較して、大きく変化していなかった。

硫化物は、第3回調査と比較すると広島湾奥部で低下していた。なお、その他の多くの海域では第1回 調査から値が低いため、大きな変化はなかった。

酸化還元電位は、第3回調査と比較すると第4回調査では、全体的に値が高くなっていた。ただし、備後 灘や燧灘の南部など一部の海域では、値が低くなっていた。

※水平分布図は調査地点の底質調査結果を基に作成しており、底質分布の傾向を示したものである。調査地 点より沿岸の海域は、調査結果の変化傾向から外挿している。

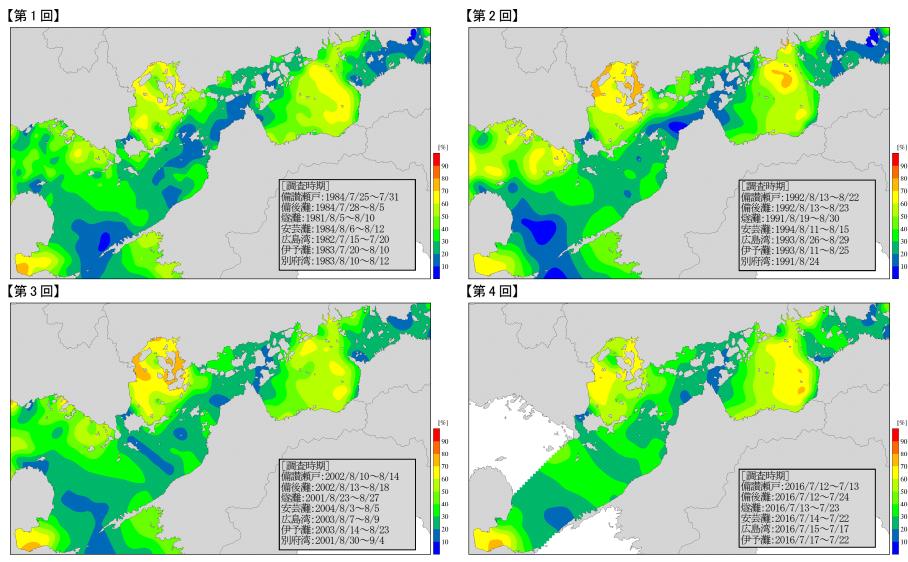


図 1-5(1) 含水率(%)の水平分布の変化

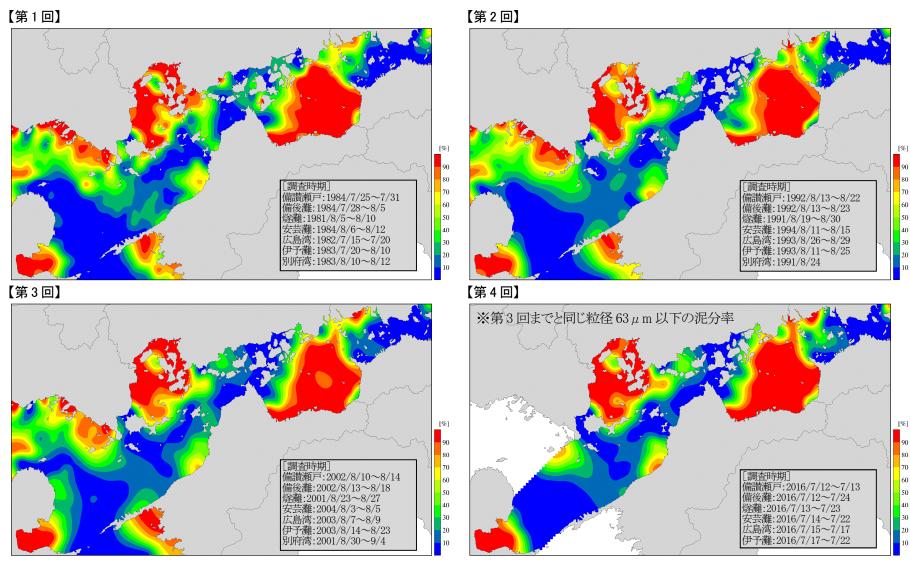


図 1-5(2) 泥分率(%)の水平分布の変化

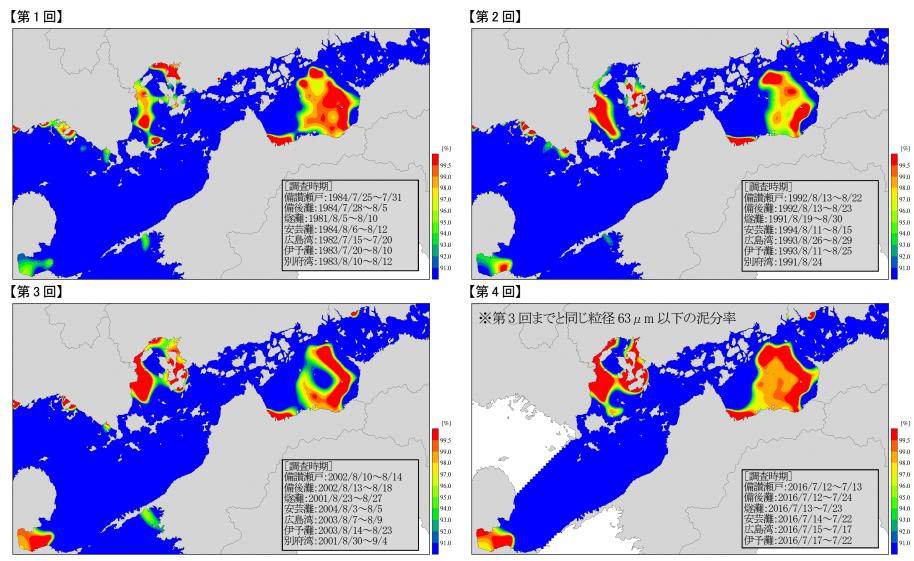


図 1-5(3) 泥分率(%)の水平分布の変化(91%以上のみ細かく区分した場合)

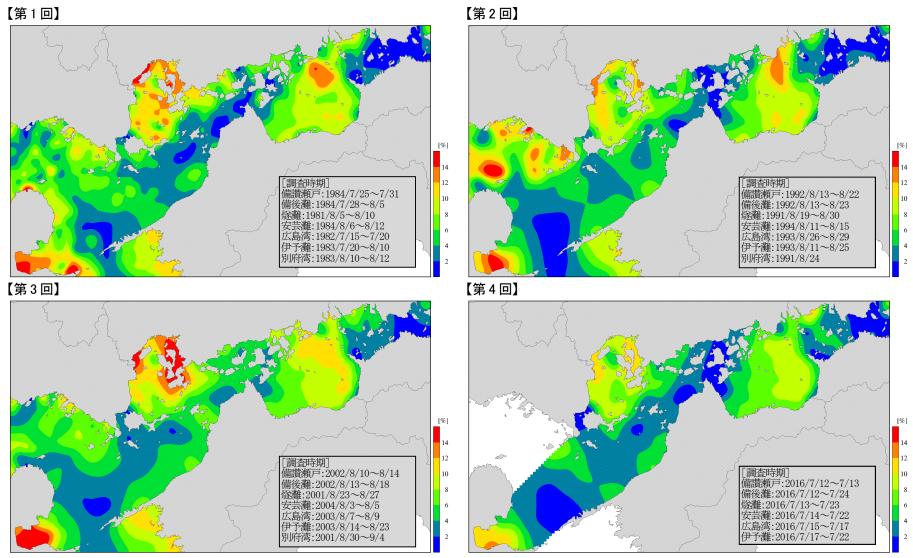


図 1-5(4) IL(%)の水平分布図の変化

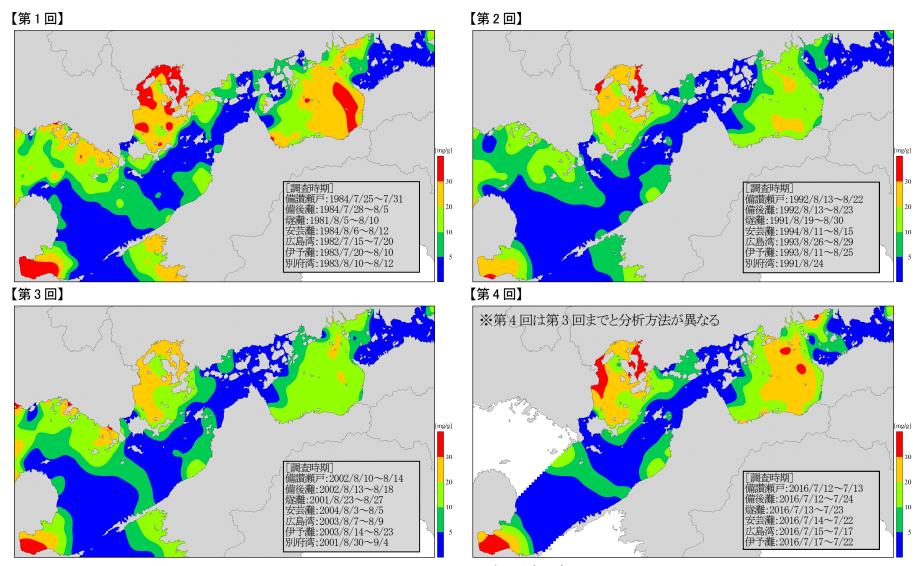


図 1-5(5) COD(mg/g)の水平分布の変化

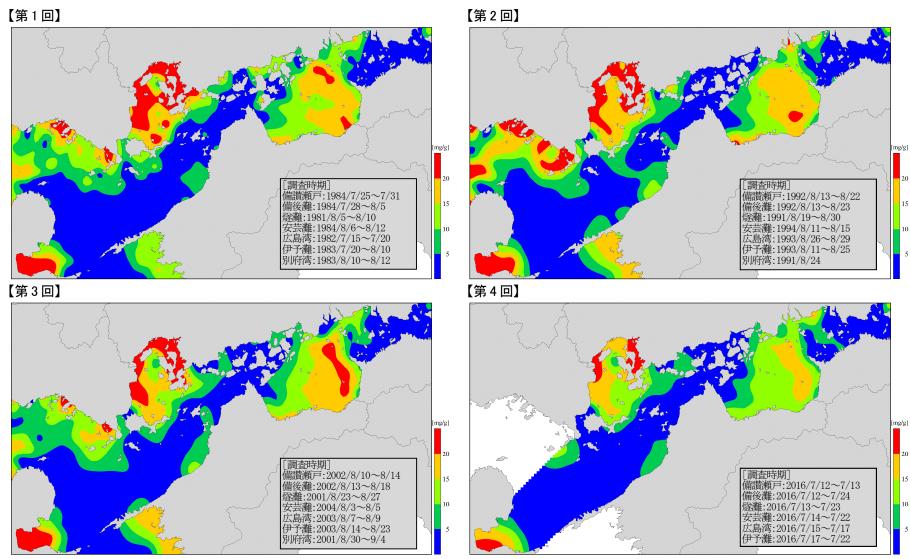


図 1-5(6) TOC(mg/g)の水平分布の変化

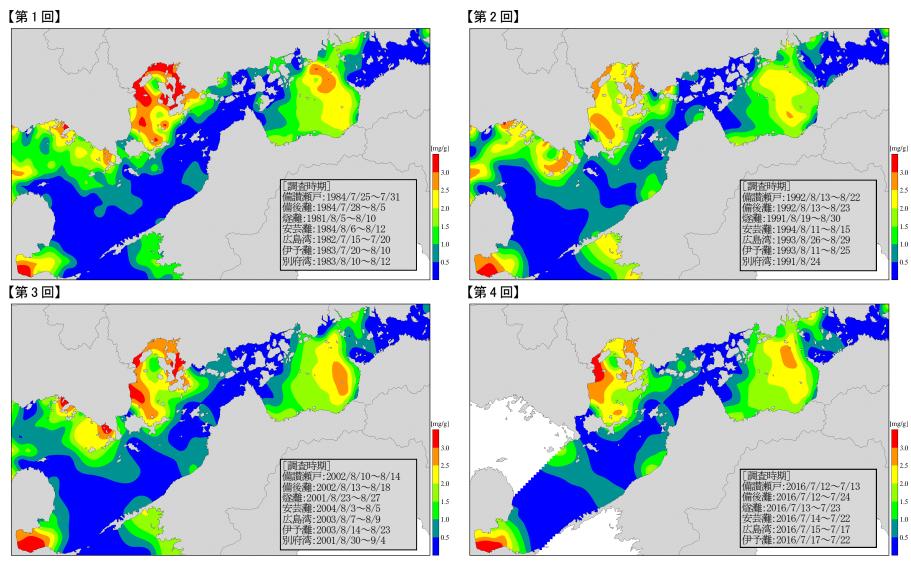


図 1-5(7) T-N(mg/g)の水平分布の変化

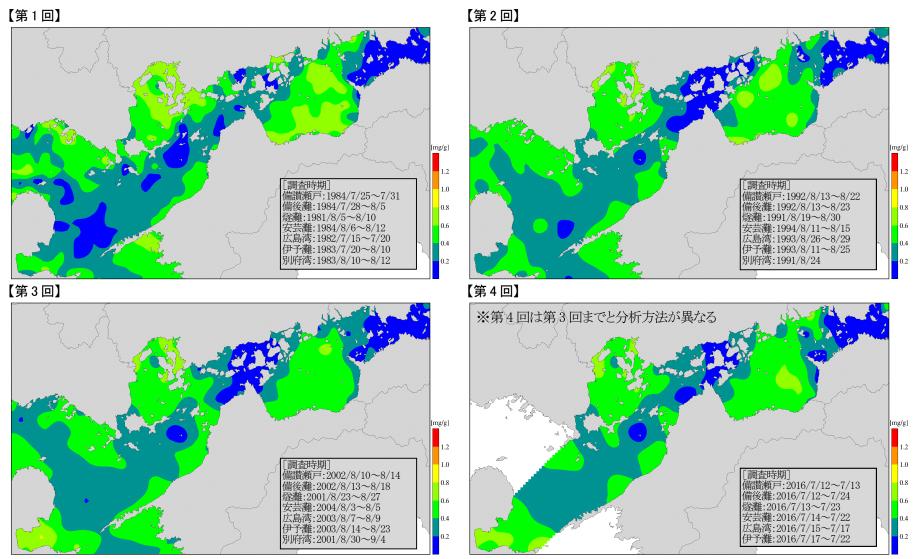


図 1-5(8) T-P(mg/g)の水平分布の変化

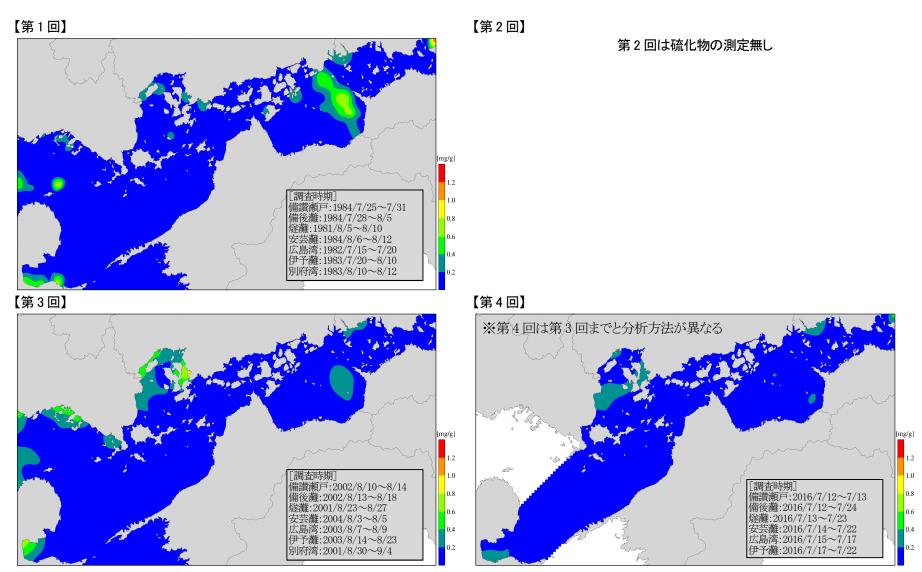


図 1-5(9) 硫化物(mg/g)の水平分布の変化

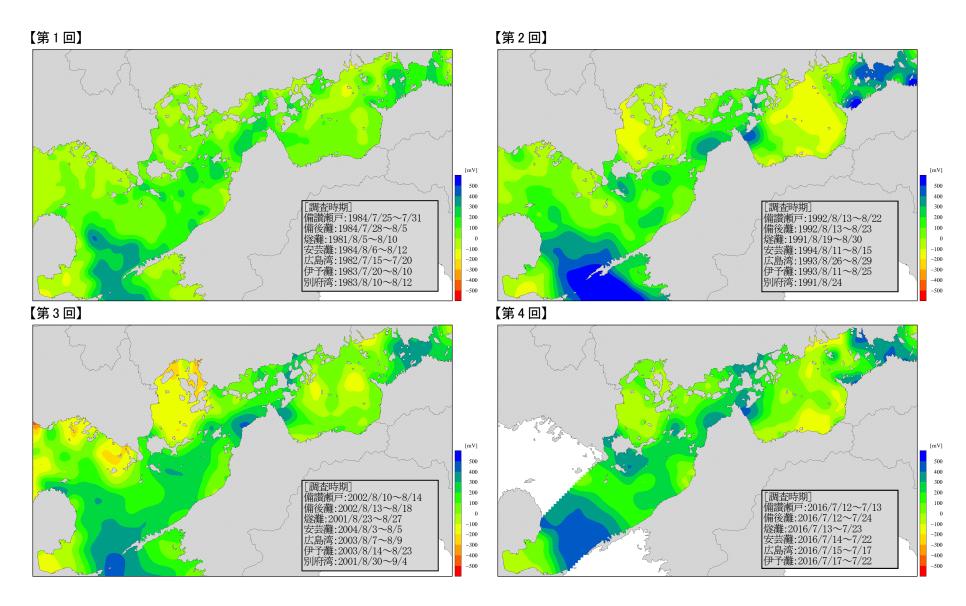


図 1-5(10) 酸化還元電位(mV)の水平分布の変化